

令和7年度 小金井市立東小学校 授業改善推進プラン【小学校】

1 授業改善の方針

児童の学習実態について、日頃の学習活動及び「全国学力・学習状況調査」、「小金井市立東小学校自己評価」（児童、保護者、教職員が回答）の結果を分析して課題を明確にする。

問題解決型学習の推進、対話的な学習、ICTの活用を柱とした「授業改善プラン」を策定し、授業改善を推進する。

2 児童の現状分析

（1）全国学力・学習状況調査

国語	「学習指導要領の内容」の全項目で、全国及び東京都の平均正答率を上回っている。知識・技能を問う設問と、思考力・判断力・表現力を問う設問のどちらも正答できており、学習内容がおおむね定着している様子が見てとれた。「話すこと・聞くこと」の領域では、全国の平均正答率を 6.9 ポイント上回っており、国語に限らず様々な学習で対話的な学習を推進してきた効果が表われていると考えられる。
算数	「学習指導要領の領域」の全領域で、全国及び東京都の平均正答率を上回っており、学習内容がおおむね定着している様子が見てとれた。特に「変化と関係」領域では全国の平均正答率を 13.2 ポイント上回っており、また、「数と計算」領域では同 11.4 ポイント、「データの活用」領域では同 9 ポイント上回っていた。これは、資料から必要なデータや数値を取り出し、問いを見いだして計算を行うといった問題解決型の学習を進めてきた効果が表われた結果だと考えられる。

（2）児童・保護者・教職員アンケート

「主体的・対話的で深い学びの実現 ～児童主体の問題解決を通して（生活科・理科・生活単元学習）～」を研究主題として、問題解決型学習や対話を主体とした授業改善に取り組んで3年目となる。

学校評価アンケートでは、「学校は、問題を解決する方法を考える学習に取り組ませている。」という問いに対し、97%の保護者が肯定的評価である。全国学力・学習状況調査でも、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」という問いに対して、肯定的に回答した児童は83.9%と昨年より4ポイント上回っている。東京都・全国の平均80.3%よりも3.6ポイント上回り、問題解決型学習の取り組みが効果を上げている。

対話的な学習について、教師自身がOJTで学んだ対話のモデルを示し、さらに児童も「ホワイトボード」や「しつものわざカード」の活用を重ねたことで、対話スキルを身に付けてきた。4～6年生を対象とした、対話に関する児童アンケート調査の「相手の話を最後まで聞いていますか。」の項目では、96.6%の児童が「聞いている。」と回答した。また、聞くばかりではなく「自分が思ったことや考えたことを話していますか。」でも、78.5%の児童が「話している。」と肯定的に答えた。対話的な活動として「話し合いをしていると『そうなんだ！』『はじめて知った！』のようなことはありますか。」では、86.7%の児童が「当てはまる。」と回答した。また、各教科の学習の中でもそのスキルを活用し、積極的に対話や交流を図る姿が多く見られた。

児童はICTを活用した授業に慣れ、タブレット型パソコン等、安定して活用することができている。（令和7年度は、1年生のタブレット型パソコンの活用は2学期からとなる。）学校評価アンケートでは、「学校は、タブレット型パソコンを使った授業を積極的に行っている。」という問いに対し、昨年よりも9ポイント上回り97%の保護者が肯定的評価である。全国学力・学習状況調査でも、児童

はタブレット型パソコンの利用頻度の高さを肯定的に回答しており、主に「インターネットを使って情報収集をする。」という設問で91.5%、「PC・タブレットを使って学校のプレゼンテーションを作成することができる。」で89.2%と高く、ICTの活用が進んでいると考えられる。

3 各教科等における授業改善の視点

国 語	低学年	自分の考えをもつためにノート、ワークシート、ホワイトボード及びタブレット型パソコンを効果的に活用し、主体的に表現できるように指導する。 発表をペアやグループ、全体など複数の形態で行い、相手の話を聞いたら質問や感想を伝えられるよう、話型を提示する。
	中学年	ペアやグループで互いの作文を読み合い、感想や改善点を話し合う活動を取り入れる。また、文章を書く前に中心となることや組み立てなどを整理し、書き上がった文章を読み返してよりよくするよう指導する。 物語文や説明文では、段落相互の関係を明らかにする学習を取り入れる。また、要約に取り組むことで、文章の中心となる語や文を見付ける力を伸ばす。
	高学年	常用漢字や文法、語彙について、書字や発話に加えて演習アプリケーションソフトを活用しながら、既習事項や基礎基本の定着を図る。 児童一人一人の主体的な課題解決や対話の促進のために、めあてや発問の文言を工夫したり、全体のねらいとは別で個別の学習課題を設定したりする。
社 会	中学年	自分の経験を基に「この内容は生活のどこに生かされているのか。」を話し合う学習を設定する。 資料を読み取る際、そこから気付いたことを記述できるようにする。本時の問い、予想の確認をし、ねらいに沿った内容になるようにする。
	高学年	単元の導入では、学習問題につながる問いがたくさん出るような資料を活用する。児童が主体的に問題解決できるように、学習問題に対する予想をもち、学習計画を立てるようにする。 文章や写真、年表、地図などの様々な資料を読み取る時間を十分に確保した上で、考えを共有する場を設け、社会的事象や自分の考えを説明したり、多様な考えに気付いたりすることができるようにする。
算 数	低学年	具体物を使うことで量感や数の概念を得られるようにする。こうすることで生活の経験から数のよさや数についての感覚を豊かになるようにする。 また、数字や尺度となる物に対する量感を得られるように、ホワイトボード等を用いて児童が具体物の操作とその根拠について説明し合う活動を行う。
	中学年	九九や文章問題などの演習アプリケーションソフトを用いて、自分の進度で復習したり適用問題に取り組んだりできるようにする。 問題を正しく読み、数量や図形の関係性に着目して、ノートに図や式、言葉で表したり、説明したりすることで理解を深めるようにする。
	高学年	問題の数量関係を把握し立式の根拠にするために、数直線図に表して考える習慣を付ける。また、演習アプリケーションソフト等を活用して既習知識の定着を図る。 ノートの記述や共有ソフトを活用して交流活動の場を作り、自分の考えや学びを自分の言葉で説明し、理解を深められるようにする。
理 科	中学年	書く内容をペアやグループで話してから、個人の記述に取り組ませるような

		学習過程を設定する。 タブレット型パソコンやホワイトボードを活用して考えを共有し、一人一人が予想の根拠を書けるようにする。
	高学年	共通体験を行ったり、生活経験を振り返ったりすることで、根拠のある予想をもたせ、条件制御について対話をすることで実験方法や条件を明確にし、主体的に問題解決できるようにする。 科学的な用語の定着やその意味の理解を深めるために、具体物を使っての説明や図式化して表現できるように指導にあたる。単元の終わりには、学習を、身の回りの生活とどのような関係があるのかや、結び付いているかといった視点で振り返りをさせる。そして、日頃から新聞やテレビ等で科学的な事象に興味・関心をもつように促す。
生 活	低学年	児童の気づきを記録カードだけでなく、共有ソフトでも記録することで、児童がその日、その時に見付けた気づき（植物の成長やおもちゃの動き方）が記録できるように手立てを工夫する。
音 楽	低学年	身体表現しながら歌ったり、体や楽器を使ってリズム遊びをしたりして、音楽活動の楽しさを感じ取れるようにする。 鍵盤ハーモニカの基礎的な技能を身に付けて、拍の長さなどを理解できるようにする。歌唱では考えを共有しながら創意工夫をし、曲想を表現できるようにする。
	中学年	器楽の学習では、リコーダーの基礎・基本の定着を図る。また、日本の音楽のよさについて箏などを通して実感できるようにする。 歌唱の学習では児童が思いや意図をもって表現できるよう、対話を通して曲想について考える機会を多く設定し、共有ソフトを活用して共有する。
	高学年	歌唱やリコーダーなどの学習では、曲想を感じ取り、創意工夫しながら表現活動ができるように、児童同士の意見交流の場を多く設定し考えを深めさせる。 器楽合奏の練習では、共有ソフトに保存してある手本動画を見て、個別練習ができるようにする。
図画工作	低学年	はさみや絵の具、きり・カッターなどの道具の基本的な技能・技法や、作業の手順が分かりやすいように、書画カメラやタブレット型パソコンを使用して児童に実物や写真を示しながら指導する。 作品を互いに見合い、対話を通して自分の見方や感じ方を広げたり、友達の良いところを見付けたりできるようにする。
	中学年	アイディアを共有したり、対話したりしながら、どのような作品が作れそうか考える時間を設け、発想が広がるようにする。 タブレット型パソコンを使って作品の写真を撮り、共有ソフトに記録や振り返りを入力し、いつでも見返せるようにする。
	高学年	自分や友達の表現の意図や特徴について振り返り、対話や発表する活動を行うことで、作品の造形的なよさや美しさについての理解が深まるようにする。 タブレット型パソコンを活用しながら、日本や海外の作家の作品などの鑑賞活動を行うことで、自分の見方や感じ方を深められるようにする。
家 庭	高学年	グループやペアでの対話を活用し、各自の家庭生活を振り返る機会を多く設けることで、学習した内容を家庭生活中で生かせるようにしていく。

		タブレット型パソコンを有効に活用し、児童が主体的、そして安全に実習や製作に取り組めるようにする。
体 育	低学年	タブレット型パソコンを活用して動きを提示することで、運動経験に個人差がある場合でも全ての児童がいろいろな動きを経験できるようにする。 鉄棒や跳び箱を使った運動遊び等で、達成感を得やすくするために、他の児童へのアドバイスや運動遊びの工夫等を表現するための対話の時間を確保する
	中学年	基礎動作や体幹トレーニングを取り入れるとともに、動きの動画提示や自己撮影での動きの確認を行う。
	高学年	練習の場を設定し、少人数のグループを組ませることで、児童が対話を通し、自分の運動能力に合った場を選択しながら練習することができるようにする。 共有ソフトを活用して、毎時間の振り返りや課題を共有したり、自らの動きや友達の動きを記録したりすることで、対話の促進や深い学びへの手立てとする。
外国語	中学年	デジタル教科書やALTの発音を活用して、歌やチャンツでのやり取りのデモンストレーションを行い、児童がすすんで英語で伝え合う場面を設定する。
	高学年	英語で話す目的・場面・状況を明確にして、児童がALTや友達と自分の思いや考えを伝え合い、意欲的に対話できるようにする。 学習者用デジタル教科書を活用し、児童が自分の課題に応じて音声聞いて繰り返し練習できるようにする。
道 徳	低学年	写真や動画などICTを活用し、視覚的情報を与えることで題材の世界観に入り込ませ、登場人物の気持ちを想像しやすくする。 動作化や役割演技をすることで、登場人物の気持ちや変化を想像しやすくし、内容項目についての対話をしやすくする。
	中学年	役割演技で心情を言語化させたり、タブレット型パソコンを用いて自分の考えを視覚化して共有したりできるようにする。 児童の興味関心にあった教材を選び、多面的・多角的な思考を促す発問を取り入れ、体験的な活動を取り入れることでより深い道徳性の育成を図る。
	高学年	主題に関わる問題意識をもたせる導入をしたり、対話をしたりして、自分との関わりで道徳的価値を考えることができるようにする。 主題について事前アンケートを取り、導入で提示することで学習の見通しをもてるようにする。振り返りでは、導入でのアンケートとの変容について考え、道徳的価値への考えの深まりを実感できるようにする。
総 合	中学年	課題の見直しを対話や共有ソフトで促し、振り返りの習慣を育てていく。 解決の見通しや相手意識を話し合うことを通して明確にして一人一人が課題意識をもち、協働的に活動に取り組めるようにする。
	高学年	社会問題や自分のキャリアなど児童が主体的に学べるようなテーマを提示する。学習のゴールを明確にし、児童が主体的に学習できるようにする。 社会問題やこれからの自分のキャリアなど、児童が主体的に学べるような課題を提示する。自分と異なるテーマについて調べている友達と情報交換したり、調査内容についての改善点を見つけ合ったりする時間を設定し、多様な視点で解決が図れるようにする。